

◇国語

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけたい力が「言葉の力」にまとめられている。 ・各学年に「本は友達」が設定され、著名人による読書体験文が掲載されている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習前に見通しをもち、学習後には振り返るように構成され、学びの自覚化が促されるようになっている。 ・「読書に親しもう」では、ブックトークやアニメーションなどの読書活動が設定されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「言葉」コーナーが設定され、語彙の増加と定着を図ることができるように提示されている。 ・各単元や教材の冒頭で、目標を示し、学習のてびきでは学びが深まるように構成されている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章は、内容・表現・言葉のリズム等を通じて様々な文体に触れ、豊かな感性を育む作品が取り入れられている。 ・「学習」では、見通しとゴールを明確にした学習への取組ができるように示されている。
その他の主な意見	
<p>・前学年の漢字を使い、絵を見て文章を書くページが設けられているものがある。その中で、光村図書は、「図書館の人になったつもりで書こう」、「学級日誌に記録するように書きましょう」など具体的な設定がされていた。また、東京書籍では新聞やノートに書かれた言葉を漢字に直しながら練習できるようになっていた。漢字の学習では、実際の文章や表記の中で活用することは効果的であると思う。</p> <p>・伝統的な言語文化について、光村図書が「季節の言葉」の中で短歌や俳句を紹介し、年間を通して親しめるように構成されている。</p> <p>・言語活動の充実という点も各者工夫されていた。特徴的だったのは、光村図書の「読む」単元において、学習の進め方がわかりやすく示され、見通しをもって学習することができると思う。また、議題や進行、記録の例示がいくつも示されており、具体的な学習のイメージをもちやすいと思う。</p> <p>東京書籍は、全学年に「国語のノートの作り方」が掲載されている。ノート作りは、記録・要約といった言語活動であり、このような見本があると学習を進める上で役立つ。</p>	

- ・東京書籍や教育出版は、低学年の教科書で絵や写真が複数あり親しみやすいと思う。
- ・光村図書については、物語教材が多く、命の大切さ、生命の尊厳について考えさせる教材など優れた教材が多いと思う。

◇書写

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B 版の紙面で大きく表示された図版や左手で鉛筆をもつ写真等が掲載されている。 ・ 硬筆文字から課題を発見、共有し、実際に書いて確認して、別の文字を書くことで定着を図るという学習過程になっている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字の大きさや配列が視覚的に理解しやすいよう、2文字以上の毛筆教材はすべて半紙原寸大で掲載されている。 ・ 巻末では、前学年で学んだことや当該学年で学んだことを、硬筆で書くことで確かめられるようになっている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年に手紙やはがきの書き方があり、発達段階にあった伝える力を育むことができる構成となっている。 ・ 適切に運筆する能力を高めるように、空書きや指でなぞる活動、穂先の通り道が理解しやすい図版等が掲載されている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の成り立ちを解説する「漢字図鑑」が全学年にあり、平易なものから難解なものへと系統的に掲載されている。 ・ 国語の教科書と連動できる教材が各学年に設定されている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科横断的な学習が充実するように、「国語の広場」コーナーでは、他教科との関連教材が設けられている。 ・ 毛筆で学習したことを硬筆で確かめるという学習過程が設定され、毛筆と硬筆の学習が関連付けられている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・ どの発行者も学習の進め方や学習過程が子どもにわかるように最初に示されている。その示し方がわかりやすいと感じたのが、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版である。 ・ 1年生の最初のページには、鉛筆の持ち方が掲載されている。また、東京書籍、光村図書出版、日本文教出版は、鉛筆を持った手と紙を押さえる手のイラストが大きく描かれており、書くときの姿勢を学習するのにわかりやすい。 ・ 東京書籍は、左端にインデックスがついていて、工夫されていると感じた。 ・ どの発行者も水書用紙を使った学習方法を取り入れていた。水書用紙を使って筆書きすることで、「はらい」と「とめ」の違いなどに気づくことができる。また、失敗するという抵抗感がなく、低学年にも取り組みやすいのではないかと感じた。 ・ 毛筆の指導では、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書で、穂先の向きが絵や図でわかりやすく示されていて、工夫が感じられた。 	

・光村図書、教育出版は、筆記具を選び、これまでに学習したことを生かして書くという学習の流れが示されており、他の教科と結び付けることができる。

・国語と書写の発行者については、異なったとしても大きな問題はないと思うが、国語と同様の発行者の場合は、国語で学習した漢字が書写に出てくるなど、連動して使いやすい面がある。

◇社会

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な事柄に参画するための基礎を培う場面や社会に生きる人々の姿等が掲載されている。 ・社会的な見方や考え方が空間・時間・相互関係の3つの視点と「方法」に着目して提示されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に学習の流れを示した見取り図「社会科の学習の進め方」が提示され、各単元がこれに基づき構成されている。 ・問題解決的な学習を見通しをもって進められるよう、各単元が「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」で構成され、問題を解決していく上で必要な学習技能が「学びのてびき」として紹介されている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を獲得する上で大切な社会科用語がキーワードとして掲載され、さらに、そのキーワードが本文中に太字で示されている。 ・児童が学習問題を追究・解決する手助けとなるよう、各単元の中に「見る・調べる」「読み取る」「表現する」「見方・考え方コーナー」等様々なコーナーが提示されている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育出版は神奈川県について多く取り上げている。児童が自分事として捉えるのに良いのではないか。 ・各者とも、課題を表す問いかけが載せられており、学習のねらいが示されている。教育出版や東京書籍では、学習の流れが明確に表されていて、見通しがもちやすくなるように配慮されていた。 ・教育出版は、課題とともに、それに基づく活動例が順序立てて示されていて、子どもにとって学習活動の見通しが持ちやすい構成となっていると思う。 ・教育出版と東京書籍では、3年生の市のうつりかわりで、昔と現在を比較する地図や写真が多く取り上げられている。昔と現在の比較が項目別に分けられ学習の理解が深まると思う。 ・日本文教出版では使っていた道具や昔のまちなみから移り変わりを表現しており、現代の生活と比較し、経験と結び付けて考えられるようになっている。 	

◇地図

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やイラスト等がその他教科での使用も想定した資料が提示されている。 ・初めて地図を使う児童が親しめるよう巻頭にイラストマップが掲載されている。
帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ・比較・関連させて考察できるように、高い山や長い川、広い湖などの模式図が地図と合わせて提示されていたり、地球上でどこの位置するのか把握しやすいように、世界の各大陸ごとのページに、縮小された地球儀が記載されたりしている。 ・地図活用のスキルが身に付くように「地図マスターへの道」が設けられている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・両者ともA4判で、位置や空間的な広がりをとらえやすいよう、折り込みページが取り入れられている。 ・東京書籍では、日本列島の地図で児童の地図の興味関心が広がる問いや吹き出しが多く設けられている。 ・帝国書院は、色彩がうすく、地図上の文字が読みやすい。また高低差、標高がはっきりと分かるようにメリハリをつけた鮮明な色分けとなっていて、日本の地形の特徴がつかみやすくなっている。 ・帝国書院は、山の高さ、川の長さの比較で、見開きに日本地図が掲載されており、比較する地名をその場で確認できる。 ・帝国書院の「地図マスターへの道」のページは、子どもたちが興味・関心をもちやすく、地図への苦手意識が減るよう工夫されている。 	

◇算数

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のしやすさを考慮し、1年生の①のみA4中とじて書き込みができるものになっている。 ・これまでに学習したことを使い、新たな問題を解決する経験を積み重ねられるよう、既習の想起を促す「今日の深い学び」が設けられている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りや学び直しがしやすいように、全学年が1冊で構成され、2年生以上の巻末に前学年までのまとめが掲載されている。 ・本時の内容を明確にして学習をすすめられるよう、2年生以上では毎時の学習の「めあて」が示されている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上の単元の導入では、日常生活の事象から問題を発見する場面が、イラストで取り上げられている。 ・算数を学習するために重要な9つの見方や考え方が、9体のキャラクターとして例示されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見、解決の流れが「はてな→なるほど→だったら」の吹き出しで示されている。 ・2年生以上の単元末の「学んだことを使おう」では、学習したことを活用して日常の場面や算数の問題を解決する機会が設けられている。
新興出版 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上の単元の導入では、既習事項や日常の問題から学びにつながるような場面が設定されている。 ・学んだことを活用して問題を解決する力を高められるよう、学期末に「わくわく算数ひろば」が設けられている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上の単元末に、児童がつまずきやすい内容を取り上げ、学び直しができるように構成されている。 ・2年生以上では「算数で使いたいことば・考え方」が設けられ、切り取って手で活用できるようになっている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の教科書では、日本文教出版、東京書籍、学校図書が分かりやすいと思う。 ・ノートの作り方が示されており、教育出版や啓林館、大日本図書の示し方に工夫が見られた。 ・教育出版は、「学びの手引」に数直線の書き方、作図の仕方、道具の使い方などがまとめられていてわかりやすい。 	

- ・大日本図書は全学年で学んだことがまとめられたページ、日本文教出版は「算数で使いたいことば・考え方」をまとめたページ、啓林館は算数資料集として学んだことがまとめられたページがある。
- ・プログラミング教育の面では、どの発行者もプログラミング的思考を使って考えるものが用いられていた。
- ・練習問題について、教育出版は、毎時間「たしかめ」があり、学んだことができるようになったか確認できるようになっている。
- ・数学的な見方・考え方という面では、大日本図書の「算数たまたばこ」や学校図書の「はてなを発見」で学習内容を日常生活に生かす活動などが紹介されている。また、教育出版は、「きっかけ」や「学んだことを使おう」、「算数をつかって考えよう」で数学的な活動を通して算数の学習に取り組めるようになっている。

◇理科

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程が「学びのライン」でつないで示され、「問題」「まとめ」等の学習過程には「?」や「!」のアイコンが用いられている。 ・3・4年は3ページ、5・6年は2ページの簡易的な体験や写真資料から児童の主体的な学びを促せるよう、単元導入が構成されている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末には「理科のノートの書き方」や「私たちの理科室」として器具の扱い方や実験時の注意点、各学年で学んだことがまとめられている。 ・単元の導入のページでは、写真やイラストが見開きで配置され、「理科の見方」につながる着目点がキャラクターのセリフで表されている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程が常に明確になるように、問題解決の学習の流れが各ページの左部分に示されている。 ・単元の導入では、大きな写真資料とともに本単元の学習内容や学習過程が示され、また年間の学習内容を意識できるように左端に1年間で学ぶすべての単元名が記載されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターの主人公のナビゲーションにより、見通しをもって学習に取り組めるよう、巻頭に「学習の進め方」が設けられている。 ・単元の導入では、写真資料で身のまわりの事象について不思議に感じられる場面や、主体的に活動を行いたくなるような場面が設けられている。
信州教育図書	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">教科書見本が送付されないため、県の調査研究の結果を参照</div>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の流れが分かるよう、「問題」「予想と計画」「実験」「まとめ」といった問題解決のステップが大きなロゴで示され、矢印でつながれている。 ・自己の成長を確認し、学びの深まりを実感できるよう、単元導入での「はじめに考えてみよう?」と同じ問いかけが単元末で「もう一度考えてみよう!」として設けられている。
その他の主な意見	
<p>・理科への興味や関心を高めるといふ観点では、日常生活とのつながりについて、各者とも工夫がされている。東京書籍では「理科のひろば」、大日本図書では「理科のたまてばこ」啓林館では「理科の広場」などが設定されている。</p>	

•どの発行者も多彩な図や写真などが使用されている。特に実際に見ることが難しい単元内容については、とても参考になるので多様な資料があればありがたい。東京書籍や学研図書は、体のつくりなどに写真や図が大きく記載されている部分があった。

•教育出版では教科書の背表紙に安全の手引きが掲載されている。大日本図書は、観察実験に使う器具の扱い方等について、巻末に記載されたページに導くようになっている。東京書籍・学校図書・啓林館は、観察・実験に使う器具の使い方や注意点が、単元内にたえて巻末に発達の段階に応じた内容が示されている。特に啓林館では巻末で器具の扱い方を振り返ることができるようになっている。

•どの教科書も理解が深まるように構成が工夫されている。啓林館は、単元の終わりに「まとめノート」があり、学習の内容を振り返ることができるようになっている。また、巻末に「ノートのまとめ方」に加え「伝えるときのまとめ方」が例示されている。

◇生活

	令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻には、必要に応じて切離し、携行できる「ポケットずかん」が設けられている。 ・教師や児童が学びの見通しをもてるよう、資質能力の三つの柱が吹き出しや表現作品で表されている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「せいかつことば」には、様々な言葉が掲載され、言語能力の育成が図られるようになっている。 ・児童の目線に立った活動写真が掲載され、イメージをふくらませることができるよう、モノクロで表現されたページが設けられている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を大きく4つの段階に分けたしるしにより、学習の見通しがもてるように配慮されている。 ・自分自身を振り返ることができるよう、具体的な活動の場面に用いるカードに「自己評価欄」が設けられている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてが明確になるよう、育成する資質・能力が「サイコロ」で示されている。 ・「学びのポケット」では、他教科とのつながりが示され、学んだことを相互に発揮することができるよう工夫されている。
信州教育出版	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 教科書見本が送付されないため、県の調査研究の結果を参照 </div>
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程が明確になるよう、全単元が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で構成されている。 ・活動を広げることができるよう、巻末には「きせつのおくりもの」や「ひろがるせいかつじてん」等の資料が掲載されている。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れが明確になるよう、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成されている。 ・巻末の「がくしゅうずかん」には、調べ方、記録の仕方、話合いの工夫、まとめ方等が一連で示されている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまおり」にすることで、植物の成長過程が一覧できるしかけが設けられている。 ・単元の学習ですぐに使える知識・技能は「ポケット図かん」、汎用的に使える知識・技能は「ちえとわざのたからばこ」に示されている。
	その他の主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍は「どうしたらいいのかな?」と投げかけられることで、いろいろ試してみたいくなる工夫がされている。 ・日本文教出版は、「せいかつたんけんたい」というキャラクターが、気づきや次の活動につながるヒントになっている。

•どの発行者も他教科との関連について工夫や配慮が見られた。特に東京書籍では、具体的なつながりの例や関連する教科について示されていて、わかりやすい。

•就学前との円滑な接続については、東京書籍は「幼児期までに育て欲しい姿」が掲載され、保護者向けの説明文もあり、家庭との連携が図りやすい。啓林館は、幼稚園、保育園等の写真が複数枚使用され、子どもが想起しやすい工夫がされている。

•光村図書出版は、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で見通しを持ち、目的意識をもって活動できる工夫がある。教育出版は、単元の最後に「なにをかんじたかな」で振り返り活動ができる。東京書籍では、「？」で始まる課題を設定しており、子どもにとって課題が捉えやすい。

◇音楽

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、身体表現や遊びの要素を取り入れた活動、中学年では思いや意図をもって表現する活動、高学年では主体的に表現に取り組む活動が設定されている。 ・見通しをもって学習できるよう、題材名、学習のめあてや見通し、新出事項、共通事項が見開きで分かるように配置されている。
教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的に学習できるよう、「音楽づくり」では歌唱や器楽、鑑賞を関連させ、学年が上がるごとにステップアップした旋律づくりが扱われている。 ・共通事項が学習活動の中でどのように活用されるのかが分かるよう、太字で示されている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育出版は、「音のスケッチ」で音楽づくりを取り上げ、学び方の手順が子どものイラストの吹き出しで分かりやすく示されている。教育芸術社は、歌唱表現を工夫するためのヒントがキャラクターのつぶやきで示されている。 ・伝統や文化に関するものについて、教育芸術社では「歌いつごう日本の歌」が取り上げられている。教育出版は、「にっぽんのうたみんなのうた」で日本の歌唱教材が扱われている。また、折り込みページで日本の唱歌が取り上げられている。日本の風景の写真や伝統芸能、楽器などが掲載され、イメージをふくらませて歌うことができると思う。 ・教育芸術社は、ドの位置をどんぐりのキャラクターで示し、児童が興味をもちやすい。教育出版は、「タンギング」の技能習得のため、「シ」の音だけであいさつ言葉をまねして練習するなどきめ細やかな段階があるところがよい。音の高さも視覚的に表現されていてわかりやすい。 	

◇ 図画工作

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・題材への思いを膨らませ、深められるように、吹き出しは児童の会話やつぶやきが中心になっている。 ・巻末の「みんなのギャラリー」では児童が作り上げた身近な作品や日本の伝統文化の作品が紹介されている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって取り組むことができるように、吹き出しには作り方や材料の生かし方のヒントになることが示されている。 ・身近な作品や地域の作品を紹介するために、巻末には「図画工作のつながりひろがり」が掲載されている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本文教出版は、巻末に材料や用具の安全な扱い方や、表現や材料の多様さについて大きな図面で示されており、「ためす」意欲が高められるよう工夫されている。開隆堂は、表現内容の要素、表現技法や材料・用具の知識などが系統的にまとめられている。 ・日本文教出版は、子どもの発達の段階に合わせ、図画工作を通して様々な立場の人々や社会集団と関わったり、つながったりする事例が写真等で紹介されており、児童のやってみたいという気持ちを引き出せるきっかけとなるのではないかと。 ・児童の吹き出しの内容を比較すると作り方や材料の生かし方のヒントになるのは日本文教出版である。 ・開隆堂では各題材のページに、学習のめあてや振り返り、材料や用具が表記されている。日本文教出版では、学習のめあての他に、安全や環境に配慮するため、各題材のページに「きをつけよう」「かたづけ」等が示されている。 	

◇家庭

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着がスモールステップでできるように、各ステップの始めに「めあて」、終わりに「ふり返ろう」が設けられている。 ・学んだことを生かし、生活をよりよくするための課題を設定するために「生活を変えるチャンス」が掲載されている。
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスで4つの視点について紹介し、各題材でどの視点が重視されているかわかるようになっている。 ・家庭科の学習を振り返り、新しい課題を解決するために「レッツトライ 生活の課題と実践」が設定されている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍はA版で実習の手順など写真で大きく掲載されている。開隆堂はAB版でやや小さいが、実習の手順は写真とイラストでわかりやすく例示されている。また、実習などの際にはコンパクトで使いやすい面もある。 ・どちらも学習の流れがわかりやすく最初に示されている。また、単元のめあてがわかるように書かれており、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・東京書籍では「生活を変えるチャンス」、開隆堂では「チャレンジコーナー」が設定され、学習したことを実践するための投げかけや実践例が示されており、生活への関連と関心を高めるような構成となっている。 ・開隆堂は「生活の中のプログラミング」というページが設定されており、主に家電製品のプログラムで行われていることが資料として掲載されている。このような身近な生活の中でのプログラミングという取上げ方は、考え方を学ぶのにわかりやすい。 	

◇保健

令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考え、判断したことが表現できるよう、授業の流れが4ステップで構成されている。 ・「ステップ1」では自分の健康課題に気づけるような問いや活動、「ステップ2」では児童の思考を促す補助発問が提示されている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」「話し合ってみよう」では、身近な問いが取り上げられ、自分の考えや話し合ったことを書く欄が設けられている。 ・3・4年生では、楽しみながら学習を進められるよう、シールを使う活動が設定されている。
文教社	<ul style="list-style-type: none"> ・色つきの囲みの中にまとめの本文が示され、大切な語句が太字で示されている。 ・各時間で学習したこと、理解したことを踏まえて考えを伝え合うように、「みんなで宣言しよう」が設けられている。
光文書院	<ul style="list-style-type: none"> ・各章扉には、これから学習する内容に関連した4コマ漫画がストーリー形式で示されている。 ・各章の「はじめに」では、イラストや写真、グラフ等の資料が掲載され、自分ごととして捉えられるように工夫されている。
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き1ページの紙面の中に、「つかむ」から「まとめる・深める」までの1時間の学習活動がまとめて掲載されている。 ・各章扉では、その章の学習内容に関わる写真が示され、日常生活での疑問の例がキャラクターによって示されている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・どの発行者も多様な資料が掲載され、工夫されている。東京書籍は、実際の大きさの写真が掲載されており、わかりやすい。 ・紙面構成について、東京書籍では、単元のはじめに最終的な目標が掲載され、見通しが立てやすい。学研教育みらいは、見開き1ページに「つかむ」から「まとめる・深める」までの1単位時間の学習が示されており、学習の見通しが持ちやすい。 ・「体の発育・発達」については、個人差や思春期への配慮が必要である、という点から、学研教育みらいや文教社の資料の見やすさは学習の助けになる。 	

・喫煙や飲酒の害や薬物乱用防止について、学研教育みらいは比較的多くページを使って取り扱っている。

◇英語

	令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・全Unitが、聞く、話す、技能統合、探究活動の見開き4パートからなる8時間扱いで構成されている。テーマ毎のまとめ「Check Your Steps」は2時間扱いで各学年3つとなり1ヶ月1unitで進めることができる。 ・語彙、表現集「picture Dictionary」が別冊になっており、4線の線種や色使いに特徴が見られる。
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・Lessonの冒頭に、その課のゴールを見通せるリスニング活動を置き、ゴールのアウトプット活動にむけて目標となる英語表現を使った活動を段階的に設定している。 ・各活動では思考力・判断力・表現力等を高める工夫がされ、各Lessonでは友だち同士で話し合えるようなペアワークやグループワークが設定されている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのセクションで1つの目標表現が設定され、それを中心に学習する内容になっており、1つの活動を15分で行う構成となっている。 ・音声によるインプットが繰り返される中で、子どもの気づきが生まれるような構成となっており、読み・書きについても繰り返し学び、定着を図るようになっている。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年で6つの言語活動の目標を設定し、それらに向けて学びを深めるために6つの大単元が配置されている。 ・大単元に、学習を見通す「HOP」、基礎・基本を習得する「STEP」、目的・場面・状況に応じて、思考力・判断力を働かせながら自己表現を行う「JUMP」が設定されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・音声によるインプットを基盤にして、5領域の力が段階的に育まれるように、各単元の前半に聞く活動が配置されている。 ・ペアやグループで取り組むコミュニケーション活動等が取り入れられ、他者に配慮してコミュニケーションを図ろうとする態度や反応の仕方について考えさせる機会を設けている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・各unitは、基礎的な知識・技能の習得と活用から思考力・判断力・表現力等を養う言語活動へと至るHop→Step1→Step2→Jump!というつくりで見開き1ページの共通した構成になっている。 ・巻末には「絵辞典」があり、3・4年生で学習した単語も掲載されている。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・各Unitは7時間扱いで、3つのPartと振り返りで構成されている。 ・各学期末にある「REVIEW」には既習事項を使って場面や状況に応じて考え、判断し、表現する活動が設定されている。
その他の主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が実際に文字を記入する箇所については、どの発行者も4線の表記を工夫している。第2線と基線の間隔が広がっている。東京書籍では活字体の書き順や留意点の記載がある。学校図書では、なぞり書きから写し書きの流れになっている。啓林館は、例文を見ながら書き写す活動が設けられている。 	

- 東京書籍は、別冊となっている「Picture Dictionary」の語彙集があり、すべての語彙は4線の中に記されている。
- 学校図書は、毎時間最初に歌の活動を取り入れているので、児童が楽しめたり、興味・関心を引いたりすることができるようになっている。また中学校で学習する文法やフレーズを英語の歌に取り入れるなど、中学校の学習を見通した工夫となっている。
- どの発行者においても世界の文化に触れることができ、さらに日本の文化についても触れられている。東京書籍では、地域から日本へ、日本から世界へと少しずつ広げていくことができるような流れになっている。光村図書では日本との共通点・相違点を理解し、関心が高まるようになっている。
- 東京書籍と学校図書は1つの活動を15分で行う構成となっている。学習の流れがStep等の表記で区切りや流れがわかるようになっている。

◇道徳

	令和元年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソーパズルや漫画等、発達段階に応じた様々な教材が取り上げられている。 ・教材を通して考えた道徳的価値を、より深めるための学習活動ページ「出会う・ふれ合う」が設けられている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・2分冊の構成で、「きづき」には教材本文が掲載され、「まなび」には内容項目、主題、発問等が掲載されている。 ・「まなびのヒント」では、話合いの仕方や、動作化・役割演技等の体験的な学習方法が示されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう」や「深めよう」、「つなげよう」では、考えを深めるための問いや、実生活につなげて考えられるような問いが示されている。 ・「やってみよう」では、役割演技を通じて道徳的価値の理解を図るコーナーが設定されている。
光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自分のこととして受け止め、考えを深められるよう、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が設定されている。 ・「考えよう・話し合おう」では、問題解決的な考えを促す問いが設けられている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科以外の教育活動とも関連付けたコラム「心のベンチ」が配置されている。 ・問題解決的な手法を用いるのに適した教材には、学習方法の具体例を示した「学習の手引き」が設けられている。
光文書院	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で問題意識をもって学習に臨み、「まとめる」で学習内容を振り返ることで考えの変容が実感できるよう設定されている。 ・コラム「みんなでやってみよう！」が全学年に配置され、発達段階に応じたグループワークが提示されている。
学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の問題意識を大切にするために、教材の前には主題名が記載されていない。 ・教材で学習したことを基に、自己を見つめ、自らの生き方をつなげて考える「つなげよう」が設けられている。
廣済堂あかつき	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「道徳ノート」には、道徳的諸価値への理解を助ける解説と、思考を深めるための問いが設けられている。 ・問題解決的な学習を取り入れた問いが示された「考えよう、話し合おう」が設けられている。
	その他の主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊に対する考え方はそれぞれあるが、伊勢原市ではこれまで別冊がない教科書で、教員が工夫してワークシートやノートを活用しているので、別冊がない教科書がかえって使いやすいのではないかと。また、その方が自由に教材を使い、授業の内容を工夫し、各学校の特色に合わせることもできるのではないかと。 ・B5の光村図書はコンパクトで使いやすい感じである。AB版の東京書籍、学校図書、教育出版、日本文教出版、廣済堂あかつきは写真や図版が見やすい。A4版の光文書院、学研教育みらいは、写真や図版がみやすく、文字の大きさも大きめで読みやすい。

- 道徳でどのように学習をすすめるか書かれたページが各者工夫されている。光文書院はノートの書き方の例が示されているのがよい。光村図書は、どのようにして考えればよいかイラストと短い言葉でわかりやすく示されている。
- 教育出版、光村図書、光文書院は、問いだけでなく、キャラクターが吹き出しの中で考えの道筋を示している。児童にとって、自分ごととして「考え、議論する」という視点でヒントになる。
- 文章の量がほどよく、理解の助けとなる写真や挿絵、図などが工夫されているものがよい。その中で、日本文教出版、光文書院は写真、絵、図を入れているほか、タイトル部分の背景に色がついていて見やすい工夫がある。また、学校図書、光村図書、光文書院、学研教育みらいは、コラム、詩、漫画など様々な形式の資料があって工夫されている。